



Eiche

Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-5 18-1 清和会第 2 ワールドナースィングホーム

Tel 047-461-9111 Fax 047-461-7010

新春講演会開催

講演する北尾氏



参加者一同の集合写真



今年の新春講演会は 1 月 18 日 (土)、千葉市生涯学習センターにノーベル賞研究家の北尾利夫氏を迎え「知っ
ていそうで知らないノーベル賞の話」と題して講演して頂いた。氏は 1958 年大阪外大ドイツ語学科を卒業、
住友商事(株)に入社、1986 年にスウェーデンのストックホルム事務所長に就任。着任早々ノーベル賞の偉大
さを知り、業務の傍らこれに関わる研究を始め、ライフワークとして現在も続けている。この分野ではわが国
唯一の専門家と見られており、2011 年に同じ題名の著書を平凡社新書から上梓した。ノーベル賞は創設以来
世界最高の栄誉を誇り、誰でも知っているが、その偉大さについては知られていない部分も多く、そのよう
な点を明らかにしていただいた。会は午後 1 時過ぎに西阪知晃事務局長の司会で始まり、風邪による高熱で欠席
の宗宮好和会長に代わり橋口昭八副会長の挨拶、事務局長の講師紹介の後、本題に移った。50 余名の聴衆は
当会会員の他一般の方も含めて熱心に聴講、講演する北尾氏もメモを見ることなく、熱心さに応えていた。終
了後、活発な質疑応答が行われ、続いて会場に隣接するレストラン「米細工うのまる」で懇親会を行い 37 名
が出席。平尾浩三名誉会長と北尾氏のご挨拶に続き乾杯、懇談に入り和やかに交流。ここでも講師への質問が
相次ぎ、ノーベル賞談義が続いた後、中締めはご夫妻で参加された会員の丸山孝士氏のご挨拶と共に行った。
後、薄暗くなったセンター入り口で全員で記念撮影して午後 5 時に解散。 (理事 坂本 宗秋)

「知っ てい そう で知 らな いノ ーベ ル賞 の話」

ノーベル賞研究家 北尾利夫

ノーベル賞の創設者アルフレッド・ノーベルは 1833 年にスウェーデンのストックホルム生まれで 1896 年に
63 歳で亡くなり、丁度明治維新を挟んだ生涯だった。19 世紀の産業革命を支えたダイナマイトを発明し、死
亡時には 20 か国、93 工場でダイナマイトを製造、莫大な富を築いた。ノーベル賞は遺言で遺産の殆ど全部を
つぎ込んで作られた。

- その特徴は、①世界で初の国際賞で国籍に関係なく、特定の分野で最高の業績を挙げた人に授与される事。
多くの国々が戦争をしていた当時に国籍に関係なく授与というのは考えられない事だった。②賞金が巨額
である事。第一回目は約 15 万クロナで、当時の大学教授の年収の 20 年分にも相当した。賞金は定額で
はなく、ノーベル財団が資産運用の成果を配分する為毎年変動する。因みに 2013 年では 800 万クロナ (約
1 億 2 千万円) で発足時の実質価値と同レベルとなった。この賞金の元となったのが、355 件の特許を含め
3,300 万クロナの遺産で、当時の世界でも最大級。巨額遺産相続と遺贈は遺言に明記され総額の 5% に
も満たなかった。(彼の親兄弟は既に亡く、生涯独身だった) 遺書のノーベル賞の創設が知れ渡ると、遺
族関係者は取り分が過少と猛反発、又外国人に授与するのは非愛国的と非難され、更に、受賞者選定を指
名された機関は大役過ぎて出来ないとしてノーベル賞の創設は難航、そして遺言執行人として指名されて
いるグナール・ソールマンが各方面を取り纏め、遺産運用主体として、ノーベル財団の設立が国王によっ
て認可された。かくして、1901 年 12 月 10 日の第一回授賞式まで 5 年を要した。
- ノーベル賞は、物理学賞、化学賞、生理学・医学賞、文学賞、平和賞の五分野で、自然科学 3 賞は全て発
明・発見と最も根源的なものが対象。各賞の選考機関は、物理学賞、化学賞が王立スウェーデン(裏へ)

ー今後の主な催し物案内ー

1. 親睦日帰りバス旅行

日時：3月29日(土)8:30 集合

行き先：佐倉、四街道方面

(佐倉順天堂記念館・佐倉高等学校記念館、
地域交流施設・旧堀田邸・川村記念美術館、
菩提樹植樹地・近藤家など)

集合：千葉駅前大通りのNTT前、三越の向かい

参加費：(30名以上で)7,000円

2. 年次総会

当会最重要の年次総会を5月10日(土)14:00より昨年同様、フローラ西船にて開催いたします。総会議題、講演会、懇親会の詳細等は次号でお知らせいたしますので、ご予約願います。

3. ドイツ研修旅行

「デュセルドルフ日本デーとウィーン、ザルツブルクの旅10日間!!」

先に表記研修旅行の特徴と旅程をご案内し、多くの皆様のご参加をお願いしましたが、より多くの皆様にご参加頂くため、本紙面をお借りし重ねてお誘いする次第です。検討よろしくお願い致します。

ご返信はこの度は2月21日(金)迄に頂きたく、またご参加への変更、友人・知人のご参加がある場合も同日迄にご一報願います。1月末迄にご返信を頂きました皆様には厚く御礼申し上げます。参加の皆様には追って旅行社近畿日本ツーリストより手続き等直接連絡致します。また事前勉強会も別途ご案内致します。

連絡先：専用電話 080-4463-2609 (9:00~17:00)
(旅行委員会世話人 橋口・平井)

◎クリスマス・忘年会開催

12月7日(土)にJR津田沼駅から送迎バスで30分のサッポロビール千葉園で開催された。会員とその家族、千葉大学留学生2名の合計35名が参加して宗宮会長の挨拶、金谷専務理事の乾杯でスタート。

ジンギスカン料理は食べ放題、ビールも飲み放題となっており、ドイツ人留学生のKay S. Pasalk君とAnna Ogamiさんも大いに会員諸氏と交流して、19:00過ぎに散会した。なお、会に先立ち、希望者に500円でビール工場見学会が催されて、ビールの製造工程の説明と試飲会が行われました。

(会員の活動)

1. (新刊紹介)

「疑惑」(スイスの作家Fr. デュレンマット著、平尾浩三名誉会長訳)同学社刊 定価1,300円(税別)古ぼけた一枚の写真から「疑惑」が始まる。第二次大戦終了直後のスイスの二病院を舞台に、定年退職間際の刑事ベアラッハの推理が冴える推理小説。(平成23年の当協会勉強会で原文を講読した同著者による『判事と死刑執行人』の後日談的な内容。)
(理事：澤井秀之)

.....

(訃報)

当会理事の歌田實氏には旧年10月12日に多臓器不全で他界されました。享年89。謹んでご冥福をお祈りいたします。歌田氏は当会発足以来の会員で、ご母堂が第一次大戦時習志野俘虜収容所を生徒と共に訪問の折ドイツ兵から贈られたボトルシップを1997年に習志野市役所に寄贈されました。又、第二次世界大戦の戦士としてその語り部でもありました。

(前ページより) 科学アカデミー、生理学・医学賞はカロリンスカ研究所、文学賞は王立スウェーデンアカデミー、平和賞はノルウェー国会が任命する5人の委員会である。五つの賞の背景は、ノーベルが重大な関心を持ち、関係も深く、自身も相当の実績を残している分野である。生理学・医学賞では彼が関心を持っていたのは病気治療の医学ではなく、人体の働きを研究する生理学であり、「生理学・医学賞」であって「医学生理学賞」ではなく注意を要する。又、彼は語学の天才で英独仏露語も母国語並みで高度な文学者の素質があった。平和賞については、戦争を嫌悪しており、英国の平和思想家で詩人のシェリーの詩に大きな影響を受け、又オーストリアの作家・平和活動家のズットナーに共鳴していた。「経済学賞」は遺言には書かれてない為ノーベル賞ではない。中央銀行で世界最古のスウェーデン銀行が1968年に創立300年を記念して特別基金を設け、経済学賞の追加を財団等に申し入れ、拒否されたが、経済学部門がある科学アカデミーの賛成で設けられた。授賞式でスウェーデン国王から受け取るディプロマには、「アルフレッド・ノーベル記念 王立スウェーデン銀行経済学賞」となっている。賞金と諸経費が財団に寄付されているものの、ノーベル賞から切り離すべきとの意見は続いている。

●受賞者選考方法は、各賞の選考機関の中にノーベル委員会があり実務を担当。毎年9月に世界中の権威者、既受賞者に翌年の候補者推薦依頼状を出し、締め切りは翌年の1月31日。8月に同委員会が科学アカデミー宛に理由を付して推薦リストを提出、審査を行い10月初旬に受賞者が決定する。財団は選考に関与しない。

●国別受賞者数は2013年迄で合計876名、1位の米国が331名で全体の38%、以下の英、独、仏、スウェーデン、スイス、露(ソ連)の合計325人を上回る。日本は第8位で19人、2.2%。第2次大戦までは欧州勢が約半数、1945年以降では米国が302人、全体の48%。この理由は、戦勝国米国が資金に余裕があった事と1930年代にナチス政権下で優秀なユダヤ系の学者が欧州から米国に逃れた事。又、過去の自然科学系受賞者の50%以上は研究の相当期間を受賞者又は後の受賞者の下で研究しており優秀な指導者の必要性を示している。(了)
(講演詳細及び受賞関係の詳細や受賞に纏わる特殊なケース等については、当会ホームページの会員専用ページを参照願います。)